

令和7年9月 本会議 議事録

【年 月 日】令和7年9月16日 【答弁番号】20-2-1, 2

【質問件名】本市の姉妹都市、友好都市との今後の国際交流事業の推進について

【質 問 者】小金丸かずよし 議員（まるまる戸八会）

【作 成 課】政策局国際政策課

■小金丸かずよし 議員

本市の姉妹都市、友好都市との今後の国際交流事業の推進について伺います。

本市は、姉妹・友好都市との交流をはじめ、地域での国際交流を進めるため、福岡県下の外国公館等と連携するとともに、国際交流員などによる様々な取組を行っています。

今年の7月には、「北九州市と高雄市との都市間の連携強化に関する協定」が締結されました。今後は、経済分野での協力強化やスマートシティ実現に向けた情報交換による効率的な都市運営、観光をはじめとする魅力の相互発信などに取り組んでいかれるとのこと。また、同時に、「北九州マラソンと高雄富邦（たかお ふほう）マラソンとの友好交流に関する覚書」も締結し、今後、スポーツ分野での友好交流を図るとともに、相互の大会のPR 及び協力を深め、両市のスポーツ事業のさらなる発展に貢献することを目指すとされております。このような取り組みに期待する市民の方は非常に多いと思います。

北九州市は、これまでの歴史の中で、まちの発展とともに、国際都市を見据え、様々な国の都市と姉妹都市・友好都市協定を締結し、多くの取組を通じて交流を深めてまいりました。青少年交流においては学生の相互訪問、研修、ホームステイ、スポーツなどを通じた次世代の国際人材育成を図る取組。文化交流では、各々の伝統芸能・食文化紹介イベント、国際フェスティバルなどの開催。そして経済・環境分野においての連携では、北九州市が公害を克服してきた歴史と経験をもとに、環境技術であるごみ処理や上下水道整備など、行政による技術指導や、企業間のビジネス交流にも発展してきました。これまでの事業の検証や報告書を拝見すると、大きな成果を上げてこられたと感じます。

そこで、2点質問します。

1点目に、本市の国際交流事業のこれまでの成果と、現在の課題について見解を伺います。

2点目に、今後は、姉妹都市・友好都市との交流について、一層盛んにしていくことが必要と考えます。例えば、姉妹都市の高校生選抜チームによる野球の交流試合を毎年交互に行ってはどうかと考えます。「北九州市の代表」として行動することにより、選手

としての経験に加え、両都市の知名度やブランド力の向上にも貢献でき、その体験をした若者たちが、将来、まちに誇りを持って生きていくことなどの好影響を及ぼせるのではないかなというふうに考えております。

また、国際ビジネスの連携を強化していく上では、北九州市の持つ水道技術や環境事業の交流をきっかけに、両都市の若者を中心としたビジネスマッチングや国を超えたスタートアップの事業の連携などにつなげていくことも有効と考えます。

以上のように、これまでの実績と信頼関係を土台に、チャレンジを絶やすことなく、持続可能で多層的な国際交流を進めていくことが、これから求められていきます。行政、市民、企業が一体となった国際交流事業が、「国際共生都市北九州市」を生み、地域の活性化と国際感覚を担う次世代育成に貢献できるはずです。

そこで、本市の国際交流事業の今後の展望について、見解を伺います。

■武内和久 市長

「グローバル挑戦都市・北九州市」の実現に向けましては、アメリカ、中国など5か国6都市の姉妹・友好都市との交流に加えまして、成長著しい新たな国や地域との絆を積極的に広げ、海外の活力を取り込みながら持続可能な発展を切り拓いていくことが不可欠でございます。

私自身、今年度に入りまして、フランス・パリでの「OECD Urban Days」のセッションやドイツ・ボンでの「気候変動国際会議」に出席をいたしまして、北九州市の「高齢化先進都市のまちづくり」や「公害克服の歴史を基盤としたサステナブルな取組」について発表する機会を得ました。

フランスにおきましては、北九州市の取組に対して高い関心が寄せられたところであり、また OECD が設立をした、パリやローマなど世界各都市の先進的な首長によるネットワークである「チャンピオン・メイヤーズ」への参加要請を受けたところでございます。

また、ドイツでは、持続可能な都市像を描く新たな概念、私はこれを「マンダラモデル」と命名をいたしましたが、これが会場で大きな反響を呼ぶなど、改めて北九州市民の皆様が築いてきたポテンシャルは「世界に通用する、世界に影響を与えるものである」と強く実感したところでございます。

ここで、これまでの国際交流事業を振り返りますと、経済・文化・青少年など、幅広い分野で交流を積み重ね、次の世代を担う若者の人材育成や市内企業の海外展開支援などに努めてまいりました。

特に、産学官民の連携によって公害を克服した経験や、技術力を生かした、アジア諸国への国際協力の取組として、例えば、1990年に国連の補助機関である UNEP(ユネップ)から「グローバル 500 賞」を受賞、2011年には OECD からアジアで初めて「グリーン成長都市」に選定されるなど、国内外で高く評価をされまして、一定の成果を収めてきたところであります。

また、記憶に新しいところでは、昨年 10 月に放送された NHK の「新プロジェクト X」におきまして、北九州市がカンボジアで行った国際協力の取組みが「プノンペンの奇跡」として取り上げられました。水道の普及率等、短期間で劇的に改善し、飲める水を実現したことは、北九州市の国際協力の大きな成果として広く知られているところであります。

このように、国際交流事業を着実に実施し、実績と信頼関係を築いてきたなか、今後は、姉妹・友好都市との交流にとどまらず、世界に向けた、北九州市のポテンシャルのさらなる発信や、グローバルな都市間連携を戦略的に進めていくことが、北九州市の持続的な成長につながるものと考えております。

その具体的な一歩として、今年度におきましては、インドのテランガナ州及び台湾の高雄市と新たに都市間連携協定を締結いたしました。成長著しい未来志向の都市と連携を図ることによりまして、市内企業の国際ビジネスの参画機会の拡大や国際協力の推進、投資環境の魅力発信、さらにはインバウンドや人材育成の分野において、相互に利益を生み出す取組を進めてまいりたいと考えております。

今後も、これまで培ってきた姉妹・友好都市との絆を大切にしつつ、「グローバル挑戦都市・北九州市」の実現に向けて、新たな都市間連携を戦略的に進めることで、国際的なプレゼンスの向上と北九州市の持続的な成長に資するよう、積極的に取り組んでまいります。